楽 伎「三蔵法師 求法の旅」

聖徳太子の時代に中国から伝来し、奈良・薬師寺で15年前に復興した仮面舞踏劇「伎楽」。

薬師寺で上演している形式をそのまま門外へ出すのは初めてです。響きの美しい浜離宮朝日ホールで、伎楽の調べと声明による三蔵法師の旅物語をゆったりとお楽しみください。

出演／滝田　栄（玄奘三蔵）
伎楽／天理大学　雅楽部
声明／法相宗大本山　薬師寺僧侶
作曲／芝　祐靖（国立音大客員教授）
衣装・小道具・面／吉岡幸雄（染司よしおか主宰）
構成／堀田謹吾（伎楽研究家）
演出／佐藤浩司（天理大学教授・雅楽部顧問）
法話／薬師寺管主　安田暎胤

平成20年

3月2日（日）
◎昼公演／13時開演（12時30分開場）
◎夜公演／17時開演（16時30分開場）

3月3日（月）
◎昼公演／14時開演（13時30分開場）

浜離宮朝日ホール
（都営大江戸線「築地市場」駅下車A2番出口3分）

※3月3日（月）10時～13時30分、浜離宮朝日ホール・小ホールにて、法話とお写経の会がございます。下記にてご予約ください。お写経の道具はすべて会場でご用意いたします。（参加費3000円）
◎ご予約・お問い合わせ／薬師寺東京別院　03-3443-1620

【全席指定】
◎S席／6,000円　◎A席／5,000円

お問い合わせ：
朝日ホール・チケットセンター　03－3267－9990
チケットぴあ　0570－02－9999［Pコード 381-766］
朝日友の会会員センター　03－3545－9348

楽 伎「三蔵法師 求法の旅」

「伎楽」とは

伎楽は、中国大陸から聖徳太子の時代に伝わった仮面舞踏劇で、仏の教えを広めることが目的でした。奈良時代には各大寺は競って伎楽団を抱え、大法会の時に仏前でさかんに上演したと伝えられています。

そのハイライトは天平勝宝四年（七五二）、東大寺の大仏開眼を祝う大法会でした。この時、六十人の伎楽団が四組にわかれて繰り広げた伎楽の数々は満場の笑いを誘い、百雷の拍手をよんだといいます。

伎楽の全盛は長く続かずやがて雅楽におされ、鎌倉時代にはもうほとんど上演されることがなくなりました。千年近い空白の後、その伎楽は昭和五十五年十月十七日、東大寺大仏殿の昭和大修理落慶法要の中日に再び上演されます。奈良時代の伎楽の面や衣装が正倉院に残っているほか、各種の芸能に伎楽から取り入れたものが伝わっているので、それらを長い時間をかけて拾い集めて、ようやく再現にこぎつけたのでした。

薬師寺の「三蔵法師 求法の旅」

薬師寺では、東大寺の伎楽再現を手掛けた天理大学雅楽部ほか、各方面の専門家の協力を得て、平成四年（一九九二年）から伎楽の新演目として三蔵法師求法の旅を上演してきました。三蔵法師の事蹟が奈良時代の日本に伝わっていることは、鑑真和上の将来品の中に玄奘三蔵の「大唐西域記」が入っていることからも明らかです。「伎楽」は「仏生譚」や「仏の生涯」のほかに「高僧伝」なども題材として取り扱ったと考えられるので、薬師寺はこの新演目上演に踏み切ったのでした。はじめは長い物語を五部に分けて毎年連続上演し、それが完結すると、今度は総集編を作って、現在も毎年五月五日の玄奘三蔵会大祭で上演しています。

三蔵法師は面をつけず、伎楽面をかぶった他の仮面伎楽団員たちとからんで芝居をします。俳優と仮面とで劇が進行する形も薬師寺が初めてです。伎楽を定着させ、伎楽の幅を広げる新しい試みといえましょう。途中、舞楽（雅楽につける舞い）を交えて舞台に華やかさを添えています。衣装はすべて古来の製法にのっとって手作りされており、仮面も正倉院に残るものから翻案して新しいものを作り上げています。物語の進行は、薬師寺の僧侶が声明で説明文をかたり、随所で雅楽もかなでられます。